

北上川ダム統合管理事務所の流木マネジメント

山内 純一¹・佐々木 悠也²

¹東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所 湯田ダム管理支所 支所長 山内純一
(〒024-0341 岩手県和賀郡西和賀町杉名畑44-162-15)

²東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所 湯田ダム管理支所 係長 佐々木 悠也
(〒024-0341 岩手県和賀郡西和賀町杉名畑44-162-15)

北上川ダム統合管理事務所が管理する5ダムでは毎年、大量の流木が回収されており、その流木処分に要する処理コストが課題となっている。こうした中、5ダムでは記者発表やホームページで流木の一般提供を呼びかけ、流木の一般利用をおこなっているが、年度内の全量処分（一般提供含む）が困難な場合もある。そこで湯田ダムでは収集流木に生息していたカブトムシを採取会として開催したところ、多くの報道機関に取り上げられる機会となった。取材が増えた結果、5ダムで流木提供も紹介される機会が増し、一般提供量が増え、流木の有効活用、流木処分コストの削減を図ることができた流木マネジメントについて報告するものである。

キーワード 流木処理、マネジメント、コスト削減、広報

1. 流木活用にあたっての課題

(1) 流木に気軽に親しむ場が無い

一部のリピーターの方からは、繰り返し流木を活用いただいているものの、一般の方（特に子供）からは流木に気軽に親しむ場がないとの声があった。

(2) 提供流木の品質面の課題

流木提供を行っても「準備した提供用の流木が残る」ことが多く、流木提供のタイミングや、提供用の流木の品質面に課題があった。



図1－提供流木の残木

(3) 流木無償提供の知名度不足

近隣の一部の方だけが何回も流木無償提供を利用している状況で、流木を「無料」で提供していることは、あまり知られていない状況であった。



図2－報道状況

2. 課題に対する対応

(1) 流木に気軽に親しむ場が無いことへの対応

広く一般の方々に流木の活用方法を知っていただくため、流木の朽木に生息していた「カブトムシの幼虫」を活用し、「カブトムシ採取会」を初開催した。

採取会では、地域活性化への貢献も視野に地域と連携し、地元の西和賀産業公社にご協賛いただき、「カブトムシ里帰り」特典も参加者にご案内するよう対応した。

（ご利用はご本人に限ります）	
1 道の駅錦秋湖	★特製「湯田ダムカレー 春ver.」 通常880円→780円
2 湯夢プラザ	★おすすめメニュー「春の彩りそば」 通常780円→680円
3 結ハウス	★新スイーツ「結セット」 通常500円→400円
4 レストハウス ゆのさわ	★おすすめスイーツ「ブルーベリーソフト」 通常300円→200円
5 峰山パークランド オアシス館	★「温泉入浴&休憩」 通常500円→250円
6 ほっとゆだ	★入浴された方に「湯田牛乳200ml」 1個サービス
7 砂ゆっこ	
8 穴ゆっこ	
9 ゆう林館	

図3－カブトムシ採取会特典

また、天然のカブトムシが育つ豊かな自然環境と、生き物を育てることで「命あるものをいつくしむ心」等、多くのことを学んでいただければと考え岩手県環境アドバイザーのご協力のもと「カブトムシ育成講座」を実施していただいた。

その他の流木に気軽に親しむ場としては、夏祭りイベントの中で、西和賀町森林組合様のご協力のもと、「流木薪割り体験」も初めて実施し女性・子供にも流木への関心を高めることができるよう企画した。今後も持続的な開催に繋げていきたいと思う。



図4ーカブトムシ育成講座

(2) 提供流木の品質面の課題に対する対応

残った提供用の流木の調査・分析を行った結果、残った流木には、次の3つの傾向が見受けられた。

- a) 泥や小石などが付着し汚れが多い流木
- b) 径が太くて長さが1mを超えるような流木
- c) キノコが生える等朽ち始めている古い流木

流木活用を促進するためには、上記のような提供流木とならないように工夫・対応する必要があるため、今回、以下の対応を実施した。

- a) 散水車と高圧洗浄機により、流木に付着した泥や小石をなるべく落とすよう対応した。



図5ー提供流木清掃

- b) 径が太い流木は長さを60cm程度にする等流木を持ち運びしやすいよう配慮しながら流木切断を行った。



図6ー流木切断作業

- c) キノコが生え始める等、流木が古くなると価値が低減するため、フレッシュな流木を提供できるよう、流木が集まった都度、期間を定めて一般提供を実施した。残った提供に適さない流木は処分する方向で対応した。

(3) 流木無償提供の知名度不足に対する対応

地元西和賀町と連携し広報「西和賀FAN」への掲載、県内発行部数15万部の「生活情報誌マ・シェリ」への掲載、県外（秋田県）近隣市報への掲載など関係機関にご協力いただきながら、幅広くかつ徹底した広報を展開した。

また、湯田ダムでも流木提供の「記者発表」を行うとともに、「ダム電光掲示板」を活用した北上市内への情報提供、人が良く集まる施設（商業施設、病院等）へ「ダムだより（支所作成広報）」の広域配布、事務所ホームページ、SNSを活用したインターネットによる情報提供など、多岐にわたる広報を徹底した。



図7ー流木切断作業

3. 課題に対する対応の結果

(1) 流木に気軽に親しむ場が無いことへ対応結果

「カブトムシ採取会」は、初開催のイベントで不安が残る中での記者発表であったが、主要各紙で紹介いただいた。特に河北新報（地方紙）の記事は、ネットニュースの国内アクセスランキング第4位になるなど、湯田ダムの流木イベントが大いに注目を集めることとなった。



図8ーアクセスランキング

その結果、流木提供者数が前年比 300%以上に増加し、流木提供者の多様化、特に流木アートや工作など、昨年まで流木用途で存在しなかった新たな流木需要を喚起することができた。

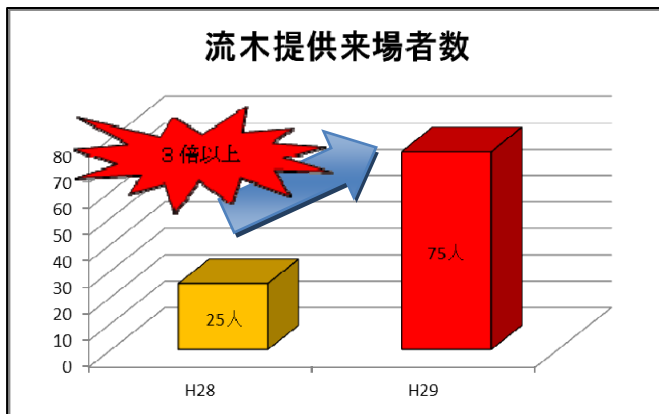


図9ー流木提供来場者数

カブトムシ採取会参加者の感想は「子供の成長のために良い経験となるイベントだと思います」「来年も是非続けてください」等、大変満足～やや満足 100%と皆様に喜んでいただけるイベントを企画することができた。



図10ーカブトムシ採取会参加者

また、参加者の中には県外からの参加者も多く、参加者全体の 45%と県外からの注目度も高かった。

さらに、参加者の中には大切に育てた成虫を繁殖させて多くの幼虫を「カブトムシ里帰り挑戦」として再度来所いただいた参加者もいた。



図11ーカブトムシの里帰り

カブトムシの幼虫 1 頭が成虫になるまでに、15 リットル以上の食料（木くず）が必要との文献記載（岩崎書店：カブトムシのかいかたそだてかた）もあり、多くの幼虫に里帰りしていただくことは、流木の減量化にも寄与するものと考えられる。

採取会は将来的に観光資源として発展する可能性もある結果となった。

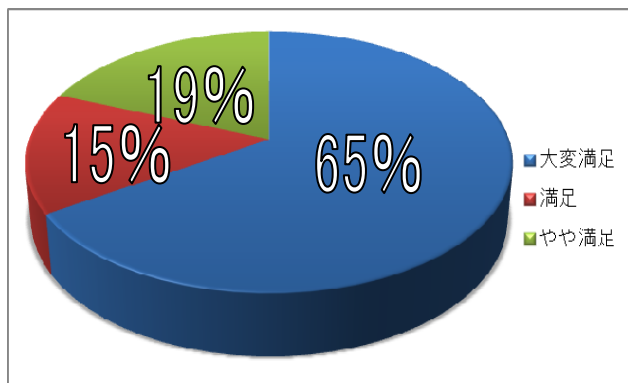


図 12ーカブトムシ採取会満足度アンケート

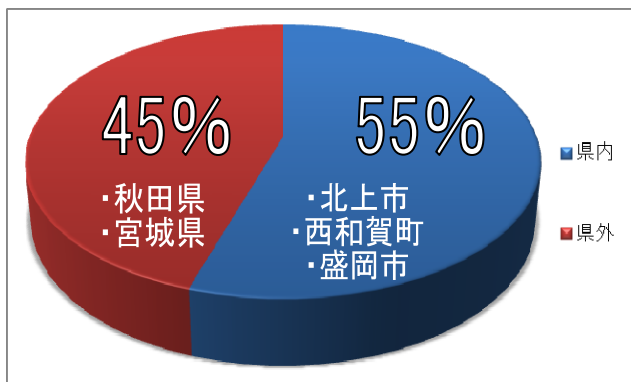


図 13ーカブトムシ採取会来場者所在アンケート

(2) 提供流木の品質面の課題への対応結果

品質面の課題に対して、以下を行った。

- 流木清掃
 - 持ち運びに配慮した流木切断準備
 - フレッシュな流木を提供できるよう期間を分割
- 上記の結果、準備した流木が残る量が減少し湯田ダムでの流木提供量が前年度比 734%と大幅に増加させることができた。

流木提供量が増えたことにより流木処分コスト約 8.6 百万円を縮減することができた。



図 14ー3回目の提供状況

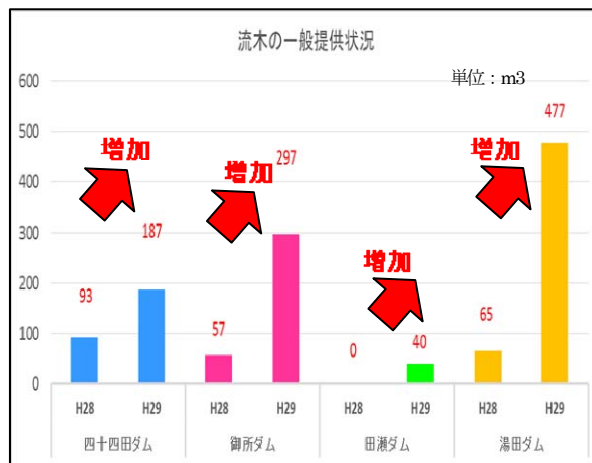


図 15ー流木一般提供量

(3) 流木無償提供の知名度不足に対する対応結果

幅広くかつ徹底した広報を展開した結果、テレビ放送は、通算 5 回も放映いただいた。(前年度は流木提供に関するテレビ放映無し)

また、テレビ放映いただいた結果、事務所他ダムの御所ダムや田瀬ダムの流木提供情報もテレビでご紹介いただけることとなり、北上川ダム統合管理事務所全体として、前年度よりも多くの流木を活用いただける流れとなった。

その他、新聞についても通算 24 回掲載(前年 2 回)、市町の広報についても通算 7 回掲載(前年 1 回) いただいた。

このように多岐にわたる広報を行った結果、湯田ダムだけではなく、北上川ダム統合管理事務所 5 ダム(四十四田ダム、御所ダム、田瀬ダム、湯田ダム、胆沢ダム)でも流木提供量が昨年比 366%増となり、1,001m³ と多くの流木が活用され、これにより概算コストで約 18 百万円も流木処理費用を縮減することができた。

4. おわりに

「カブトムシ採取会」を通じて、「流木」は、貴重な「地域資源」となりうるということがわかった。

しかし、「カブトムシ採取会」だけで、流木の活用促進が進むということではなく、活用促進に向けて、利用者の声に耳を傾けながら、地域の実情に応じ、常に改善を図っていく姿勢が重要である。

今後も様々な工夫を重ねながら、「流木」という貴重な資源が、より有効活用されるよう対応を図ってまいります。